

OISA NEWS

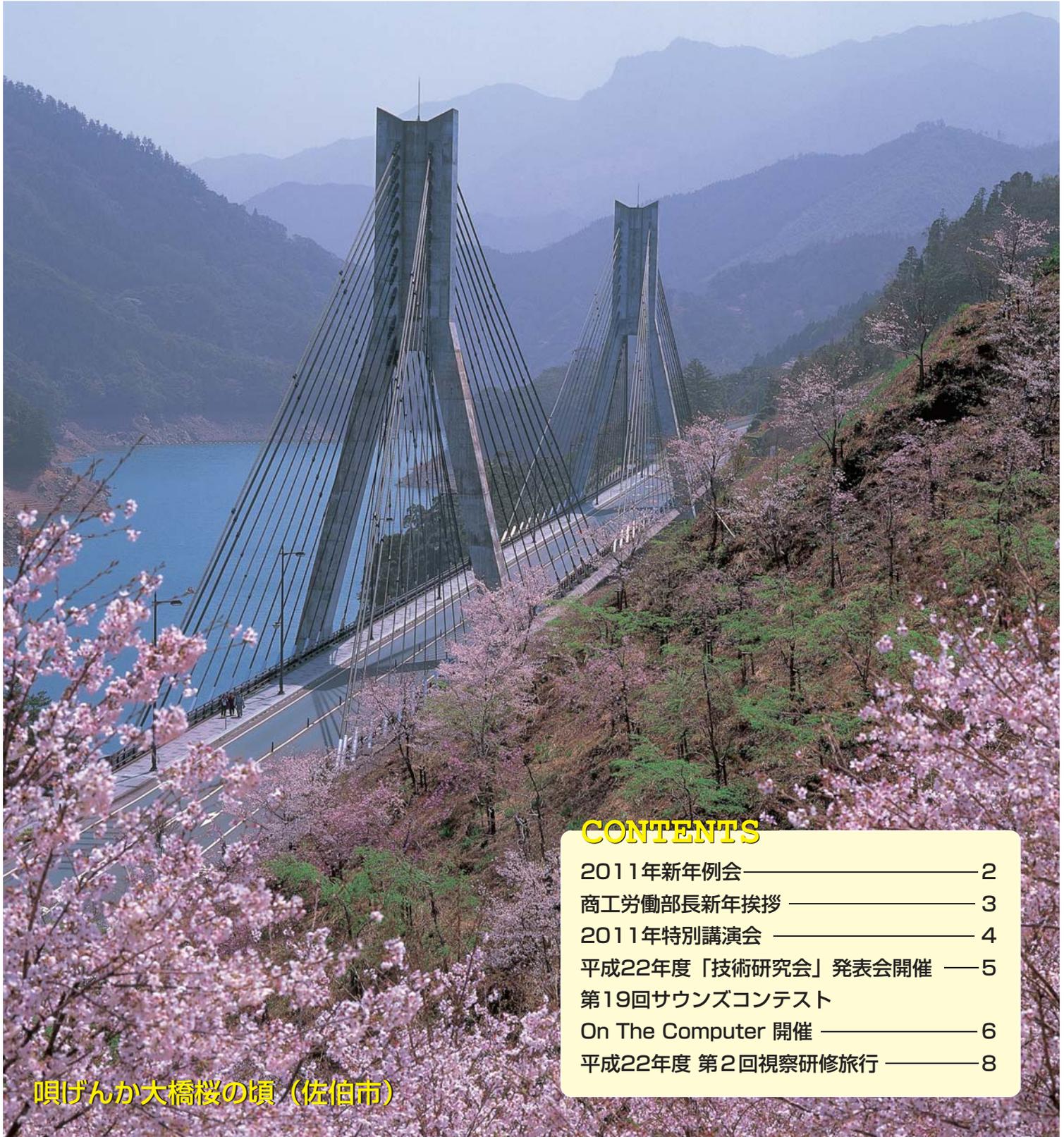
OITA
INFORMATION
SERVICE INDUSTRY
ASSOCIATION

2011. 4

53

発行：大分県情報サービス産業協会
会長 森 秀文
<http://www.oisa.jp>
編集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL (097) 537-5918
FAX (097) 534-4545
印刷：佐伯印刷株式会社

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

2011年新年例会	2
商工労働部長新年挨拶	3
2011年特別講演会	4
平成22年度「技術研究会」発表会開催	5
第19回サウンズコンテスト	
On The Computer 開催	6
平成22年度 第2回視察研修旅行	8

唄げんか大橋桜の頃 (佐伯市)

2011年 大分県情報サービス産業協会 新年例会開催



森 秀文 会長



釘宮 磐 大分市長

平成23年の新年例会が、1月20日（木）大分市トキハ会館にて来賓並びに会員企業多数の出席の中、盛大に催されました。

最初に森秀文会長より新年の挨拶がありました。

来賓及び関係機関団体への平素のお礼の後、「卯年」にふさわしく2011年は心して跳びはねるステップアップの年にしたいという意気込みと、情報サービス産業協会の当面の共通の取り組み課題について話がありました。

中でも、クラウド、SaaS化のトレンド、携帯端末の出現等による環境の変化が、我々地域情報産業が自律的産業へと構造を転換する良い機会と考えられること。リーマンショック以降、回復基調と不透明感が錯綜した経済情勢にあるが、経済産業省が発表した平成21年度特定サービス産業実態調査によると、ITサービス産業の年間売上高は21兆5,000億円となり、回復に兆しが予想されること。また、2010年10月の上場企業の中間決算でもユーザーのIT投資が徐々に回復傾向を見せているようで、これまでストップしていた色々な案件が動き出したのではないかとと思われるという経済動向について説明がなされました。

とは言え、IT業界を取り巻く環境は、非常に厳しい状況が続くと思われることから、我々は技術動向や国の政策を注視しつつ、新たな対応を先んじて行えば将来展望は必ずや開けるもので、英知を結集して、新たな技術やサービスを創造し展開していく必要があるという話がありました。

次に、大分県商工労働部長山本和徳様のご挨拶を頂戴し、特別講演へと移りました。本年は「夕方なしか」でおなじみの吉田寛様から「大分発信！元気な笑い」という演題でご講演をいただきました。

その後、懇親会では、大分市長釘宮磐様にご祝辞を賜りました後、当協会前田稔副会長の乾杯の発声と共に新年祝賀会が開催されました。大変和やかな歓談を経て、最後に当協会小野敬一理事の挨拶をもって会は盛大に終了しました。



懇親会風景



新年ご挨拶

大分県商工労働部長
山本 和徳 様

皆さんこんにちは。大分県商工労働部長の山本でございます。新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

大分県情報サービス産業協会に於かれましては、平素より県政の推進にあたり、多大なるご協力ご理解を賜り、先ずはお礼を申し上げます。森会長のもと、引き続きIT技術及び情報交流の点につきましては、本年の取り組むべき方向視座は、ほぼ網羅していただいています。

さて、国内全体では物づくり産業をしっかりと立て直して行こうということが示されています。大分県内に於きましても、新たに日田キヤノンマテリアル着工の決定等、国内の物づくり拠点の集約再編の中で、大分県がしっかりとプレゼンスをもっていこうと推移しています。このような物づくり基盤が大分県の産業構造の強い支えとなっていく様に運営していかなければならない、年頭に当たっては、私達も襟を正す訳であります。

物づくり基盤の産業構造がしっかりしてますと、例えば業務の効率化といったようなIT投資が必要です。ここ数年は投資を抑えてきた企業も多く見られたと思いますが、「そろそろ、しっかりやらなければいけないかな。」という企業が多々有るのではないかと思います。このような点をしっかりキャッチしていくことに加え、例えば、医療、介護の分野においても、益々業務の効率化が必要になってきています。「今、求められる業務システムは何なのか。」という点においても、非常にニーズが高まってきていると思います。現在、雇用状況が難しいと言われていますが、数年先を見据えた時に、「今、投資できることはしっかりと投資した方が良いのではないか。」そして、「体力をいつ、どこで、どういう形でつけるのか。」という点が、大変重要な課題になってきていると思います。

国も、大分県も今後国際的な市場活動の更なる拡大活発化といったことを図っていくことも必要だと思っています。例えば、TPPといった議論もありますが、大分県の素晴らしい農産物、おいしいもの、これを更に加工に高めていく製造生産管理の分野は、これから益々伸びる領域であり、伸ばさなければいけない領域でもあります。ここには必ずITが求められていく分野と思っています。ITの強みである空間を超えて、リアルタイムに情報を発信できるという特性は、国をまたぐ所に一番効果を発揮する。このよ

うな所をしっかりと担っていただくということが必ず必要になってきます。

大分県の強みでいえば、自然の恵みが豊かであり、留学生の人口比率が日本一です。この事を如何に活用していくか、色々発展する可能性のある分野が、大きく残されているのではないかと思います。このような背景の中で、私も大分県としても、大分産業活力創造戦略というものを毎年作っていく訳ですが、政策ニーズをしっかりと把握した上で取り組んでいかなければならない、そして、本年取り組まなければいけない事について検討を部内で進めています。今、皆さんが大分県においてこれを盛り上げていこう、或いはこういった事を進めていくべきではないかというご提案について、今後とも色々インプットしていただければ大変幸いです。

私達は、先ず自治体クラウドの構築というような形で、県の行財政改革に取り組むとともに、皆様のビジネスとしてもしっかりとしたモデルと成り得るものを構築していきたいと思っています。先程申し上げました様な海外のマーケットをしっかりと掴んでいく、或いは海外の人材をどんどん観光客としてもお招きするような形をとっていくにあたり、様々なソフトウェアやITを使った情報発信等々、この様なものがコアとなって、クリエイティブな産業活動も、元気な方たちをどんどん応援させていただきたいと思っています。

私たちが運営しているアイプラザから、立派な人が育ってほしいなと思っていますし、彼らが育っていくにあたって、ここにお集まりの皆様のご指導ご鞭撻というものは必ず必要なのだろうと思っています。そういう若い人たちへの対応というものも、大分県全体として、また地域として支えていければ良いなと思っています。

23年度に於きましては国も、もう一つのクリエイティブ産業という取り上げ方をして、いわゆるクールジャパンという様なコンテンツの発信を行っていこうと予定しています。まさしく森会長がおっしゃった様に、これを先んじて、我々のできるビジネスプラン、ビジネスモデルを考えて提案していくという事が必要だと思っています。

IT関連の情報システムサービスは、非常に盛り上がり得るものだと思います。県としてもしっかりとご支援申し上げていきたいと思っています。その為にも、皆様のお知恵をいただきたいということを重ねてお願い致します。

景気動向だけを見ると、中小企業の皆さんを含め、中々実感がわかない所でございますが、何にせよ「元気をしっかり出して頑張っていく。」ということ合言葉にして、新年例会のご挨拶とさせていただきます。

最後になりましたが、本日、ご参集の皆様のご健勝と関係会員各位の皆様のご会社が益々ご発展することを心より祈念致しまして、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

(総務委員会)

特別講演会

演 題：「大分発信！元氣な笑い」

日 時：平成23年1月20日（水）16:00～17:30

場 所：トキハ会館5階 ローズの間

講 師：コピーライター 吉田 寛 様



吉田 寛 様

新年あけましておめでとうございます。先程控室で会長さんから「もう景気の悪い話は聞き飽きたから景気の良い、元氣の良い話を聞かせてくれ」と依頼されました。簡単に言うと「いつもみたいにアホな事を言うちよくれ」と言うことだと思います。今日は今年の始まりという事もあり、皆さんの笑顔で今年を乗り切っていただきたいと思ひますし、この大分県を是非明るくしていただきたいと思ひます。私は53歳なのですが、今まで大きな怪我病気をしたことがないという事が自慢なんです。色々自分の生活を見てみたら、気がつくことがあったのでご報告します。

まず、最初は、私は年中『裸足』なんです。石田純一さんよりもっと前からしよったんですね。20年間風邪をひいていませんし血行もいい。そして、次は『かばす』。大分県が生産高98%を誇っているカボスですが、私は1日平均5個消費しております。お味噌汁、お吸い物、煮魚、焼き魚、お刺身なんでも合いますが、一番合うのが焼酎ですね。焼酎にも色々ありますが、麦焼酎がばっちり合います。この焼酎にカボスをどうやって入れるかという、真っ二つに切って切り口を上にして斜めにして絞り込む。そうすることによって、白い果皮の部分の油も一緒に絞り込まれる訳です。ここにビタミンPという成分が多く含まれているということは最近わかったことで、これは毛細血管の流れを良くするという効果があるそうです。次は『笑い』です。笑いが健康に良いのは皆さんご承知の通りですね。血行、血流、新陳代謝が良くなる。それから、任天堂DSの脳トレの開発をしていらっしゃる東北大学の川島先生が「笑うことは脳トレになる」とおっしゃっています。その川島先生は「笑うのは人間だけである」ともおっしゃっています。そういうことを書いていたら、どこかのおいさんが「いやあ、馬も笑うで」とか言っていましたが、馬は笑いよる様に見えるだけやと思うんですが。次は、性格が『素直』かどうかです。私は学校の勉強はあまりできなかったんです。小学校の先生が通知表によく書いていました。「性格は素直です」。素直だけで53年間生きてきましたが、素直やったら何がいかと言うと「貰い」が良いんです。私は講演で地図にも載っていないような所にも行きます。その様な所に行った時に、近くにいたおばちゃんに「おばちゃん、〇〇公民館ち、何処かなあ」と聞いたら「あ

んた、どっかで見たことあるなあ」「あんた吉田 寛やねんかえ」「何しに来たん」と言うので、「講演会で〇〇公民館に行かんといけんに」と返答すると、「そんな事はいいけんこれ食べよ」っち言われ、そのおばちゃんが作った漬物を差し出され、食べたら本当に美味しかったですよ。「こりゃーおばちゃん美味しいなあ」っち褒めよったら次はタッパーで出てきました。素直やったら「貰い」が良い。ニコニコしよんだけで何かくれる。一人じゃ食べきらんくらい漬物貰って帰って、近くの酒屋さんで仲間と角打ちしながら酒の肴にしました。

「吉田寛の美容と健康の秘訣」の最後は、『練習』という事です。何の練習かという、皆さんはご家庭やお仕事の事以外に興味の世界を熱心にやっていますか。新しいことを次々にやって練習をすると年齢に関係なく上達します。それを脳が快感と感じて、今日もやろう、明日もやろうと、モチベーションが上がる訳です。だから、趣味というものを大切にしていきたい。それが人間のバランスを作るという事です。

さあ、私が早口で美容と健康の秘訣を5つばかり申し上げましたが覚えていますか？一番目は「裸足」次が「カボス」その次が「笑い」次は「素直」最後が「練習」。今ここでは反復できるんですが、会場を出たら忘れてしまいますね。でも忘れない方法があります。簡単です。言葉の最初の文字だけ覚えておけばいいんです。「は・か・わ・す・れ」です。これは辞書にも載っていません。私が作った言葉です。言葉を勝手に作るというのがコピーライターの仕事なんです。「はかわすれ」これは「医者いらず」と同義語です。生まれて初めて聞いた言葉はインパクトがありますから忘れにくいんです。

そんな「はかわすれ」で53年間怪我病気がなく過ごしてきました。「病気はわかったけど怪我はどげなっちゃんかえ」と不思議に思った方もいると思ひます。怪我をしないということには別の理由がありまして、それは「臆病」ということです。本当にそうなので、車に乗っても飛ばさない。飛ばせないんですね。ぶつかるかもしれないと思うと車間距離も取るスピードも出しません。それで今まで全部ゴールド免許で、事故に遭ったこともありません。注意しておけば怪我はしないということです。

本日の講演の中から、皆さんに参考になるものがあれば幸いです。（総務委員会）

（以上は、講演内容を抜粋・要約したものです。）

<文責：広報委員会 吉田 靖>





平成22年度 「技術研究会」発表会開催

日時：平成23年2月24日（木）
14：00～17：15

場所：ソフィアホール
(大分第2ソフィアプラザビル)

技術委員会が主催する平成22年度「技術研究会」発表会が2月24日に開催されました。

この研究会は、毎年会員各社の中堅及び若手の技術者が集まってソフトウェアの技術研究を共同で行うもので、今回で第14回目となりました。

今年度は「AR」、「Android」、「HTML5」の3つの研究部会を設けて募集を行い、大分大学大学院生を含め20名の参加者により、部会ごとに具体的なテーマを決めて実際の研究活動を行ってきました。

発表会ではまず、森会長からの開会挨拶の後、産学連携をより深める取組みとして、日本文理大学と大分大学の「研究シーズ」を紹介していただきました。

今回の大学研究シーズ発表は以下の2件でした。

①「携帯型情報端末（iPhone）のセンサデバイス活用の一例」

日本文理大学工学部 情報メディア学科 教授 福島学 氏

②「緩いアプリケーション共有を実現するコロトレイのための情報配信制御」

大分大学工学部 知能情報システム工学科 准教授 中島誠 氏

ともに具体的実用化を目指した興味深い内容であり、休憩時間には会場に設けられたデモコーナーに多くの方が詰め掛け、熱心にデモに見入っていました。

続いて各部会のメンバーより、昨年7月から行ってきた研究の成果発表が行われました。

今回の各部会の研究テーマと発表内容は以下のとおりでした。

① AR部会

テーマ：「ARで生活はどう変わるか？」

内 容：AR（拡張現実）の定義・分類を整理し、アプリケーションの試作を通じて様々な利用分野やそれによって私たちの生活がどのように変わるのかを考察。

② Android部会

テーマ：「知識0からのAndroidの調査（定義、他のスマートフォンとのOS的な比較等）を通じた、Androidのメリット／デメリットの考察」

内 容：iOSとの比較によるスマートフォンOSとしてのAndroidの特徴の評価と、組込みOSとしてのAndroidの可能性の検討。

③HTML5部会

テーマ：「HTML5の可能性～進化するWebアプリケーション～」

内 容：デモを交えながらHTML5の新仕様を紹介し、その背景と動向を踏まえてWebアプリケーションの進化を示唆。

各部会とも、本務の傍ら十分な時間の取れない中での研究活動であったと思いますが、いずれも新しい技術動向に対して精力的に研究し、実業務への影響や新たな事業展開の可能性を視野に入れた前向きな取り組み姿勢が窺われました。

最後に、重光委員長より講評とお礼を申し上げ、各部会の代表者に対して研究活動の労をねぎらいました。

なお、各部会の発表資料は当協会のホームページにて公開しております。



(技術委員会)

第19回 サウন্ズコンテスト On The Computer 開催

日時：平成23年1月22日（土）13：30～ 会場：大分市オアシス広場21 映像小ホール



森会長挨拶

第19回を迎えたサウন্ズコンテスト On The Computer は、1月22日（土）に大分市のオアシス広場21映像小ホールで開催されました。

今回は、応募曲66組70曲を数え、その中から厳選なる予選を通過した25曲（トリニータ応援歌2曲、祭りのテーマ曲2曲を含む）を当日演奏し、公開審査を行いました。来場者も110名を数え、例年以上の盛り上がりとなりました。

今年も大変レベルの高い激戦となり、見事競争を勝ち抜きグランプリに輝いたのは、大分市の**星芝あつこ**さんの作品“Lunar Eclipse”でした。

この作品は、題名の通り「月食」の時の、今まさに欠けていく瞬間の光の移ろいをイメージ出来る素晴らしい出来栄でした。

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。

昨年はチームにとって苦難の一年となりましたが、建て直しに向けての県民の声が届くような元気溢れる楽曲が印象的でした。

最優秀作品を3月13日、大銀ドームにおいて大分フットボールクラブへ贈呈する予定でしたが、東日本大震災の影響で延期となり、4月24日（日）の大分トリニータホーム開幕試合より向こう一年間、ホームゲームの試合前にBGMとして使われることになっています。観戦に行かれる方は、試合直前に流される音楽にも是非ご注目下さい。

最後に、応募曲の編集、会場設営等で大変ご苦勞をおかけした日本文理大学関係者様、また、協賛をいただきました各社様にも紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

（イベント委員会）



【審査風景】



【会場風景】



【グランプリ受賞の星芝あつこさん】



【トリニータ応援曲部門最優秀賞の披露】



特別ゲスト

黒川真毅先生

(神奈川工科大学准教授)(向かって右)

星芝貴行先生

(日本文理大学准教授)

講演：『0円で始めるコンピュータ・ミュージック』

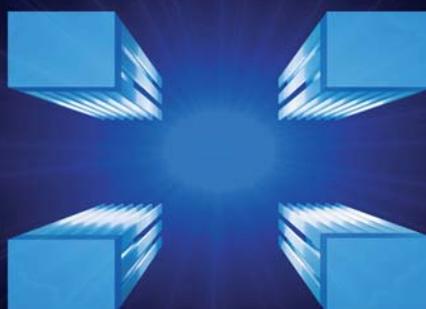
第19回サウンズコンテストのご報告 応募数66組 70曲

	氏名	年齢	地区	タイトル
グランプリ	星芝あつこ	24	大分市	Lunar Eclipse
フリー曲部門 1位	小堺卓哉	23	神奈川県	太陽と星と夢の記憶
フリー曲部門 2位	吉村俊也	20	大分市	Zipangu
フルー曲部門 3位	後藤涼太	21	大分市	an unknown object
トリニータ応援歌部門 最優秀賞	星芝あつこ	24	大分市	Go For It! TRINITA!
〃 優秀賞	堀陽菜	22	大分市	SAEMON23 -舞-
審査員特別賞	落合邦浩	34	東京都	イントロダクション

審査委員	氏名	審査歴	備考
審査委員長	田村洋彦	15回目	大分大学教授(音楽科)・九州作曲家協会会長
審査委員	深田宏一	2回目	作曲家
審査委員	久保田栄子	9回目	大分サウンズクリエイター協会 事務局長
審査委員	川村典	1回目	(社)日本作曲家協会

最新技術と長年に亘って
培われた制作ノウハウの
融合による印刷技術

データ管理、分析、発送
までトータルサポートする
マーケティング事業



中央省庁の校閲テストを
クリアした「データベース
自動組版システム」

計画立案から商品開発
までサポートする「地域
活性化」支援事業

佐伯印刷株式会社

大分市古国府1155-1 TEL 097-543-1211 FAX 554-4028
E-Mail:info@saiki.co.jp URL:http://www.saiki.co.jp/

東日本大震災で被災された皆さまに 謹んでお見舞い申し上げます。

大分県情報サービス産業協会 会長 森 秀文

平成22年度 第2回視察研修旅行

平成22年度第2回視察研修旅行が、平成23年2月4日（金）に参加者23名で実施されました。
今回は、ダイハツ九州株式会社大分工場（中津市）と九州シンクロトン光研究センター（佐賀県鳥栖市）を視察しました。



ダイハツ九州株式会社大分工場では第一工場を見学させていただきました。はじめに会社の概要説明、ビデオ上映の後、工場に移動し自動車の組立ラインや検査ラインの見学を行いました。第一工場は普通自動車から軽自動車まで生産できるという汎用性のある生産ラインで労働環境や地域環境、生産効率に配慮された工場でした。

九州シンクロトン光研究センターは、佐賀県立の地方自治体が設置する施設です。センターでは紹介ビデオを視聴した後、実験ホールを見学させていただきました。これだけの施設を県立で設立・管理していることまた、光と一言で言っても様々なものや、利用方法があることに驚かされました。
(企画委員会)

平成23年度通常総会開催のお知らせ

1. 日 時 平成23年4月20日（水） 14：00より（受付開始 13時30分より）
2. 場 所 大分第2ソフィアプラザビル 2F ソフィアホール
大分市東春日町ソフトパーク内（TEL 097-532-0889）
3. 総会次第

<ol style="list-style-type: none"> (1) 総会議事 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1号議案 平成22年度協会活動報告、委員会事業報告 並びに 平成22年度収支決算承認の件 会計監査報告</td> <td style="width: 50%;">(2) 会長挨拶</td> </tr> <tr> <td>第2号議案 平成23年度協会活動方針 並びに 委員会事業計画決定の件</td> <td>(3) 来賓挨拶</td> </tr> <tr> <td>第3号議案 平成23年度収支予算承認の件</td> <td>(4) 講演会 「大分の情報サービス産業への期待」 大分県商工労働部 部長 山本 和徳 氏</td> </tr> <tr> <td>第4号議案 役員改選の件</td> <td></td> </tr> </table> 	第1号議案 平成22年度協会活動報告、委員会事業報告 並びに 平成22年度収支決算承認の件 会計監査報告	(2) 会長挨拶	第2号議案 平成23年度協会活動方針 並びに 委員会事業計画決定の件	(3) 来賓挨拶	第3号議案 平成23年度収支予算承認の件	(4) 講演会 「大分の情報サービス産業への期待」 大分県商工労働部 部長 山本 和徳 氏	第4号議案 役員改選の件		
第1号議案 平成22年度協会活動報告、委員会事業報告 並びに 平成22年度収支決算承認の件 会計監査報告	(2) 会長挨拶								
第2号議案 平成23年度協会活動方針 並びに 委員会事業計画決定の件	(3) 来賓挨拶								
第3号議案 平成23年度収支予算承認の件	(4) 講演会 「大分の情報サービス産業への期待」 大分県商工労働部 部長 山本 和徳 氏								
第4号議案 役員改選の件									
4. 懇親パーティー